

Q 1 世田谷の子育て環境について

世田谷区で子育てをする親御さんは、自分の望む子育て環境を選べていると思いますか。

→はい

(政治的立場からどのようにご回答するかはご判断ください)

Q 1-2 より一層自分の望む子育て環境を選択できる社会のために必要なことは何だと考えますか。

(要素)

・以下の点で、子育て環境の充実が図られていると言えるのではないのでしょうか。

- ①保育待機児童の解消に向けた取組みの推進
- ②幼稚園の預かり保育の充実
- ③働き方改革の推進

(文案)

働き方の多様化など子育て家庭のニーズに的確に対応するため、保育施設整備や幼稚園の一層の活用など、保育待機児童の解消を早期に実現し、仕事と子育ての両立を図る環境を整える必要がある。(89字)

Q 2 子ども・若者の育ちについて

子どもたちが「一から何かづくりだす」「思いっきり遊ぶ」楽しさを得られる生活環境が整っていると考えますか。

→はい

Q 2-2 具体的に今までのどのような取組みが寄与していると考えますか。

(要素)

・これまで、以下のような子どもたちや若者が様々な遊びや創造を楽しむことができる取組みを進めてきたと考えています。

- ①プレーパーク、児童館の取組み
- ②地域における多様な経験、体験機会の充実
- ③子どもが主体的に取り組むことのできる機会の充実

(文案1)

プレーパーク発祥の地として開設当初から区と地域住民との協働で子どもたちが自由に遊ぶ場を創出するとともに、プレーカー、プレーリヤカーなど身近な地域で外遊びの機会充実を推進している。(89字)

(文案2)

青少年委員や青少年地区委員、PTA や地域の活動に支えられ、地域の中で多様な経験や子どもが主体的に取り組むことのできる機会が創出されているが、こうした機会の更なる充実が必要と考える。(88字)

Q3 若者、子育て中の親御さんの投票率

若者、子育て中の親御さんの投票率が低い原因は何だと考え、どのような取組みが必要だと考えますか。

(要素)

(子育て中の親の投票率が低いというデータは確認できませんので、要因は想定です。)

- ・期日前投票所(出張所、まちセン)もこれらの人々にはなじみが薄いので、スーパーや駅で投票できるようにする利便性向上の方向と、若者や子育て世代のニーズにあった政策を打ちだし対話により関心を高める方向とが考えられます。

(文案)

若者や子育て世代の生活圏により近いところ(駅、スーパー、コンビニ、大学等)で当事者のニーズに根ざした政策を対話により割り上げると共に、期日前投票所も設置に向けた取組みを進める。(89字)

Q4 学童保育(新BOP学童クラブ)について

理想的な学童保育、どのような児童が育つことで保育の質を高めたといえると考えますか。

(要素)

- ・「毎日の生活の場」としての子どもの居場所となるとともに、全ての児童が放課後等における多様な体験・活動を行うことができるようにすることが重要です。
- ・また、安心して仕事ができる環境ができることにより、子育ても安心して行えることも必要です。
- ・子どもが自発的、自立的に遊びを行うことにより、発達段階に応じて、直接大人の目が無くても、安全安心に過ごす力を身につけ、友達とあそぶ等自分で放課後の生活を作り出していけるようになることで、保育の質が高まったといえると考えます。

(文案)

子どもの毎日の居場所となり多様な体験ができる場、保護者が仕事、子育てを安心してできる場が理想と考える。子どもが自発的、自立的に遊びや生活ができるようになることが重要ではないか。(88字)

Q4-2 理想の学童保育が整備されていない原因は何だと考え、どのような取組みが必要だと考えるか。

(要素)

- ・喫緊は、大規模化への対応が必要。例えば普通教室の開放など、学校施設の多機能化、多目的利用をより推進すべき。人材育成と確保が重要。
- ・しかし事業開始から年月がたち、制度疲労が生じている。ドラスティックな手法を講じるべき。

(文案)

需要に対し十分な施設規模が確保できていないこと、必要な人材を育成、確保することが課題であると考え。また、制度構築より相当年数が経っており改めて振り返ることが必要ではないか。(87字)

Q5 在宅での子育てについて

在宅での子育て環境について改善する必要があると考えますか。

→ある

Q5-2

在宅での子育ての環境について、整備されていない原因は何か。どのような取り組みが必要か。当選したら取り組む予定はあるか。

(要素)

- ・出産直後など、子育て家庭は誰しも必ず在宅子育て期を経験します。転出入が多く、若い世代が地域とつながりを持ちにくい世田谷区において、孤立した子育てを防ぐためにも、親子で出かけられる場や気軽に相談できる機関などの環境整備が必要です。
- ・これまでおでかけひろばや利用者支援事業の拡充等に取り組んできましたが、賃料負担が大きいこと等から、拡充にあたり物件の確保や地域偏在などの課題があります。
- ・今後は、国や都の財源確保を前提に、都市部に見合った補助の仕組みと、ニーズに基づく計画的できめ細かな整備が必要であると考えています。

(文案)

孤立した子育てを防ぐために親子で出かけられる場や気軽に相談できる機関などの環境整備が必要。財源確保や都市部に見合った補助の仕組みづくり、ニーズに合ったきめ細やかな整備に取り組みたい。

(91字)

Q6 おでかけひろばについて

おでかけひろば行ったことはありますか

→ある

Q6-2

行った結果が区議会での活動にどのように役立っていますか。

(要素)

- ・おでかけひろばは、スタッフの心遣いにより、親同士の交流を促し地域の他世代の方との交流を試みるなど、地域で孤立しない子育てを実現しています。
- ・支援の受け手が担い手になるなど、支援の循環がみられます。
- ・最近では、おでかけひろばに来られる親子が中学校に行き、触れ合い体験を提供しています。

(文案)

おでかけひろばは、親同士のみならず地域の多世代の交流にもつながるものであり、地域の再生に寄与する施設として、大変意義深いものと考えている。議会において充実を図るべく取り組んでいく。(90字)

Q7 若者・子ども・子育て政策への思いについて

(文案)

若者が地域の中で持っている力を思い切り発揮し、子育て家庭が地域の中で安心して子育てを楽しむことができる地域社会を、区民のみなさんと一緒に創っていきたい。(76字)

Q7-2 任期中に「これだけ実行する！」という政策

(文案)

保育待機児の早期解消、在宅子育て支援の拡充、区立児童相談所の円滑な運営 (35字)